

## 未来構想方式 サンプル問題

みなさんは、今、2040年2月17日の日本にいます。以下の課題文は、日本のある地域の1950年代から2040年までの歴史的な変遷を記しています。図表を参照しながら課題文を読み、設問に答えなさい。

### [未来島の概要]

未来島は、瀬戸内海に浮かぶ離島である。島から本土の港まではフェリーで約30分、港から地方空港まではバスで約30分の距離にある。島から県庁所在地（政令指定都市、人口：約110万人）までは、フェリーと電車を乗り継いで約2時間を要する。島の面積は50平方キロメートルで、瀬戸内海独特の温暖少雨な気候である。

### [未来島の歴史]

#### 1950年代

未来島は造船業が盛んで、小さな島に造船会社が12社もあった。造船は多くの部品を必要とし、島には部品工場も数多くあった。仕事を求めて多くの人々が島に移り住み、最盛期には2万人を超える人が島で暮らしていた。毎週のように船の進水式が行われ、多くの見物人が集まり、島はいつも祭りのように活気であふれていた。



#### 1960年代

1960年代に入ると、島の造船業は、中国や韓国の企業との激しい競争にさらされ、徐々に衰退していった。島の労働力人口の約4割が造船関係の仕事をしていたため、造船業の衰退は島の経済を直撃した。島の南西部においては、比較的なだらかな傾斜地を利用してみかんやレモンなどの柑橘類やブルーベリーの生産が盛んであった。そこで、島は、農業用機械の導入費用を補助する制度を設けるなどして、島外から新規就農者を積極的に呼び込もうとした。

(中略)

#### 1990年代

島の柑橘類やブルーベリーは品質に優れ、評判が良かった。しかし、作付面積が小さく、生産量が限られていたため、島の農産品が全国的に知られる存在になることはなかった。1991年にアメリカのオレンジが日本に自由に輸入されるようになると、安いアメリカ産のオレンジに押されて、日本産のみかんの消費量は最盛期の3分の1まで落ち込んだ。島では、経営難により廃業する農家が相次いだ。

世界経済の拡大に伴い、海上輸送と造船業は活況を呈していたが、島の造船業は取り残されていた。規模の小さな島の造船会社は、中国や韓国の巨大造船会社に価格面で圧倒され、資金不足から技術開発もままならなくなっていた。島の造船会社は統合を繰り返し、3社になった。

仕事がない島民は、フェリーを使って本土で仕事を見つけ、結婚や就職を機に島から出ていく若者も増え、島の人口は減少の一途をたどっていった。



(中略)

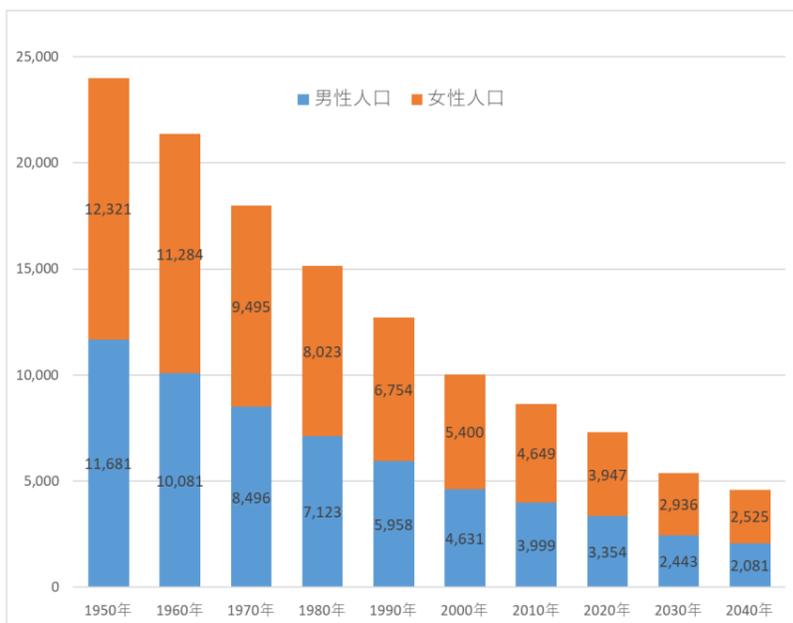
## 2030年代

島の経済を支えてきた造船業・農業の衰退は目に見えて明らかであった。造船会社は人員の整理を進め、失業した人の多くは島を去った。島には、農家の廃業により耕作が行われなくなり放置された農地（耕作放棄地）が数多く見られ、かつて豊かな自然と島民の笑顔があふれていた島の風景は見る影もない。

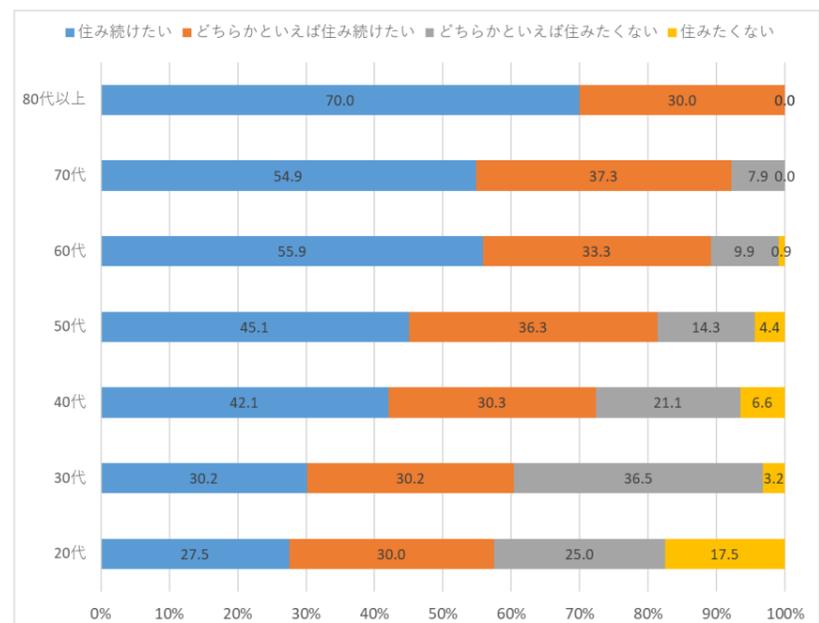
## 2040年2月17日現在の状況

労働力人口の減少に伴って少子化も加速し、島には小学校・中学校・高等学校がなくなった。そのため、子育て世代は島外に流出した。子育て世代と同居していた高齢者も島外に流出し、患者数の減少により病院は規模を縮小し、勤務医の確保が難しいことなどから診療日を週3日に限定した。島民にとって貴重な移動手段であった島内を走るバスの本数も少なくなり、食料品の購入などに不便を感じる、いわゆる「買い物難民」が問題となっている。空き家も増え、朽ち果てた家が島に散在している。人口減少により、本土との往来も少なくなり、本土と島を結ぶフェリーの本数も減り、島は孤立を深めている。

【図表 1】 未来島の人口の推移（単位：人）



【図表 2】 島民アンケート「島に住み続けたいか」2015年実施（単位：%）



問. 未来島は、2040年に存続の危機ともいえるような状況に陥ってしまいました。あなたは、いつ、どのような施策を講じれば、島の未来を変えることができたと思いますか。